

[工藤]

もしもし、お電話かわりました。

[野村]

昨日、ありがとうございました。情報開示の件で。野村と申します。

[工藤]

こんにちは

[野村]

2点あるんですけど、まず、昨日気付けばよかったんですけど、昨日、いただいた書類が、議事録として、最初に、今一番新しいもので、第5回のリニューアル、選定委員会ですね、第5回の議事録をもらってるじゃないですか。つまり、その前に4回あるわけですよ。その後にも、あるわけですよ？僕がこの『選定理由』というふうに、請求書の2番で、『選定理由』としたのは、全ての文書なんです、つまりなんです。どういう内容で、どういう内容でプロポーザルの選定理由、プロポーザル内容、ちょっとね不足があったかもしれませんがね。とにかく、全部欲しくて、その中で、多分、ボリュームがあるから、「必要な箇所だけを、プリントアウトしてもらいますよ」と、いうつもりで、出したつもりなんです。結局5回しか出てないけど、選定委員会の、議事録は全部見たいんです。必要なところは希望するんです。

[工藤]

はい。

[野村]

それはちょっと前回の、決定の内容の中に含まれているという前提で、再度、オープンしてもらえないか、ということ。連絡です。相談です。

[工藤]

1回目からのやつということですか？

[野村]

1回目からです。

[工藤]

1回目からなんですか。

[野村]

ええ。

[工藤]

今回のやつは、第1回目っていうのがですね、「第1回目から」のっていうのがですね、ちょっとこの内容には書かれてなかったですね。それでいま、検討委員の所属内容ということで、第5回目のやつですね・・・

[野村]

あのね、ごめんなさいね。お役人さんがね、そこで、「書いてないから出さない」「書いてあるものしか出さない」という、やり方を平気ですることは、僕も十分わかってる。あなたが「書いてないから、明確に明記されてないから、明記されてる分しか出しませんでした」ということには、理由があるから、それを僕は咎めようとはしませんよ。でも、社会常識として、文書が存在するか分からない状態で、果たして、検討委員会というのが、何回開かれたのか、全く分からない状態ですわいから、それはある程度、文書を持つ側がね、多少の、揺らぎは、容認した上で、これも、用意しておいた方がいいだろうと、準備しても、全然おかしくないし、そうしてくれる役所もあるんですよ。

[野村]

どう思います？僕が言ってること。あなたは、書いてないから出さなくて当たり前だと言わんばかりの、言い方をしてるけど。文章を持ってる者と、何があるか分からない者との間に、雲泥の情報量の差があるわけですね。「これも本当はあるんだけどね、請求書に書いてないから出さない」と言われたら、いつまでたっても。そこにはたどり着けないんですよ。それでもあなたは、「書いてないから出さない」

と。

[工藤]

わかりました。一度ですね、また改めて、こちらからお電話させてもらってもよろしいですか？

[野村]

いいです。お願いします。全部、多分、全部写しはもらわないと思います。全ての議事録。ちょっと、僕も、いつもね、書くときには、『何々に関する全ての文書』、『全ての』っていうものを入れるんですね。「ただし、次の内容が含まれること」。全てとして全部出ることもないんでね。隠されることもよくあるんでね。「全ての文書。ただし、以下の内容が含まれること」という、書き方を、常としてるんです。今回ちょっと僕もね、多分急いで書いて、それが漏れてたみたいなんで、あなた方に、いや入ってないから出さないっていう、理由を与えてしまった僕の責任もありますけどね、いま申し上げた理由でね。ちょっとオープンしてほしいんです。

[工藤]

もう一度ですね、ここも、たとえば、第1回目からのですね・・・あの委員会の

[野村]

それは、それをあなたが、もう1回出せというのは、結局、開示決定通知書に、書いてないから、出さない出さなかった。あなたの判断は正当で、それが欲しいんだったら、別に出せという、もういかにも役所仕事になるわけですよ。あなたがそれを「そうじゃないと駄目だ」と言うんだったら、そうしますよ。

[工藤]

ちょっと一度ですねまた、折り返しお電話させていただきますので、よろしいですか？

[野村]

それとね、併せて、昨日の件は、また昨日の件で、検討して欲しいんですけどね。あと、あの、あと、ごめんなさい、あと二つ、昨日打ち合わせの中で出た内容で、

松山さんが、他の自治体に聞き取りをして、リスト化したものが、少なくともページ2枚の文書が、議事の中で提出されてるものが、添付されていない。「これは出してもらわないと困ります」と、「調べてくれないと」ということで申し上げた件は、分かりました？

[工藤]

それは確認中です

[野村]

わかりました。あともう一つね。僕が、転送届けを出すのは当たり前ですよ？という話を、あなたは昨日の段階で聞いてなかったけども、それを聞きました？業者に対して。

[工藤]

それはリダイレクトというようなことですか？

[野村]

リダイレクトです。

[工藤]

リダイレクトですよ。それについてはですね、一番最初にお電話いただいたときにですね、そのようなことでということで、大迫の方からですね、業者の方に連絡をしていただいでですね、それをきちっとやっていただいでおります。

[野村]

昨日言ってる話と違うじゃないですか。昨日ね、面と向かってね、転送届という言葉あるかわかんないだろうから、転送届という言葉を使って、昨日僕が、昨日、リダイレクトだとか、使わなかったのが、あなたがあまりわかってないからですよ。

[工藤]

すいません。あまり、ちょっと詳しくないもんですから

[野村]

僕言ったでしょう。検索して、引っかからなかったりとか、もしくは、「お気に入り」に入れて「あれ、繋がらないよ」と、「おかしい、おかしい」という人がね、たくさん発生するんですよ。だから転送届をね、リダイレクトをするのが当たり前でね、「何でそれがやられないんですか？」っていうことを、昨日さんざん、あれだけ話して、何で昨日言わないんですか？

[工藤]

いや、申し訳ございませんちょっと

[野村]

分かってないんだよ。あなた、何にも。僕の言ってる話が。

[工藤]

ちょっと、専門的用語がちょっとすいません、わからなかったもんですから、これ申し訳ございません。

[野村]

それはねやったんですか？そしたら、なんか馬鹿な話になるじゃないですか。昨日ね、松山さんを、下から呼んで、松山さんを下から呼んで、あの提案の話になるわけですよ？それをやらないと、松山さんは「やらなくて当たり前だ」と、そんなことが、なんだ、「それ、やる責任が、あるんでしょうか？」みたいな、失礼な言い方を、させたんですよ。松山さんに。僕に嫌な思いさせたんですよ。そんなことも分かんないから。昨日の段階での話は、業者が転送届を出してない、リダイレクトしてない、それが「契約書に約定されてないから、やらなくて当たり前だ」と。それが「何でそんな責任があるんですか？」みたいな、失礼な言い方を、松山さんがしてきたわけでしょう。根本がズれるんですよ。あなたが理解してないと。

[工藤]

すいません。その辺はちょっと基本的に

[野村]

専門的じゃなくて、本当に、本当に外れた方がいいよ、もう、ウェブサイトの関連の窓口からは。お話にならないよ。

[工藤]

いや、すいません。その辺についてはちょっと理解ができてなかったもんですから、すいません。

[野村]

なんかね、なんかでも自分が聞いてね、あなたが窓口に立って一番ね、整理をしてたわけだから。リダイレクトっていうことが出て、それを業者がやってるってことを理解してるんだったら、言葉が違うけど、昨日、松山さんと僕がやってる話を聞いたら、「あれ、なんか俺が聞いたあれのこのこと話してるみたいだぞ」ぐらいのね、推測が働いて当たり前ですよ。あきれますよ、僕は。

[工藤]

いや、すいません。

[野村]

これね、この話、ちゃんと、松山さんにも言っといてくれよ。後で確認しますからね。松山さんからね、「ありました？」と。「やったそうですよ」と。

[工藤]

はい、わかりました。

[野村]

確認しますからね、ちゃんとやったかどうか。信用できないよ。本当に。

[工藤]

松山の方には、私から言っておきます。

[野村]

お願いします。はいさっきの件、連絡お待ちしております。お願いします。